winning!

全国ワークスタイル変革大賞2024全国大会において「企業部門 ITコーディネータ協会 会長賞」を受賞

12月19日、東京都TODA HALL & CONFERENCE TOKYOホールにて「全国ワークスタイル変革大賞2024全国大会」が開催され、油谷知岐助教（情報化推進統合拠点DX推進研究センター）・小寺賢志（情報部職員）が香川大の「『200の業務システムを開発！』非情報系事業部門職員によるシステム内製開発を通じた大学業務改善」を発表し、「企業部門 ITコーディネータ協会 会長賞」を受賞しました。非情報系職員が主体的にシステムを内製化し、業務効率化や組織力向上に寄与した点や、業務改善や属人化解消に繋がったことが高く評価されました。

十川麗美特命助教が「中小企業基盤整備機構中国本部長賞」を受賞

12月10日、広島県にて開催された第8回中国地域女性ビジネスプランコンテストで、臨床遺伝ゲノム診療科の十川麗美特命助教が「中小企業基盤整備機構中国本部長賞」を受賞しました。テーマは「本邦初！未来の次世代型がん予防遺伝啓発プロジェクト」で、遺伝情報を活用して病気の早期発見や健康管理を可能とする取組です。また、日本貿易振興機構（JETRO）「J-StarX Local to Global Success Program 2024」シリコンバレー派遣にも採択され、令和7年1月12日から1週間にわたるプログラムに参加しました。

塩田友亮教諭（附属特別支援学校 高等部主事）が令和6年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞

12月10日、文部科学省にて「障害者の生涯学習支援活動」に関する文部科学大臣表彰の授賞式が行われました。この表彰は、障害のある人が生涯を通じて教育やスポーツ、文化などの多様な機会に親しむことを支援する活動が評価されるものです。塩田教諭は平成16年に「香川県知的障がい者生涯スポーツクラブ」で指導を始め、20年間にわたり知的障害児者のスポーツ活動に関わり、クラブの活動計画や運営、競技指導など多方面で選手たちを支援してきたことが評価されました。

高尾英邦教授（微細構造デバイス統合研究センター長／創造工学部機械システム工学領域）が第24回山崎貞一賞を受賞

11月27日、日本学士院にて一般財団法人材料科学技術振興財団第24回山崎貞一賞の贈呈式が行われました。山崎貞一賞は、科学技術水準の向上とその普及啓発に寄与することを目的とした賞です。高尾教授は触覚でもっとも繊細な感覚をもつ指先の「手触り感」を人間と同等以上の感度で検出する半導体ナノ触覚センサの開発に世界で初めて成功するとともに、この技術が実用化されている点が高く評価され、半導体及びシステム・情報・エレクトロニクス分野で受賞しました。

吉田秀典副学長が「令和６年度防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞

9月13日、総理大臣官邸にて「令和6年度防災功労者内閣総理大臣表彰」授賞式が行われました。本表彰は、『災害における防災活動について顕著な成績・功績のあったもの』、『防災思想の普及または防災体制の整備について顕著な成績・功績があったもの』の中から、防災に関し全国民の模範となり、かつ「防災の日」において内閣総理大臣が顕彰するに足るものに対して表彰されるものです。吉田副学長は、平成29年10月から現在までの7年間、四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構長として地域の防災・減災・危機管理に係る教育、研究、地域連携の発展ならびに啓発に尽力し、その功績が高く評価されました。

seminar

NEWS & TOPICS vol.1

大学院地域マネジメント研究科主催＆リキャリスキル教学センター共催「社会人による博士号取得の体験談」セミナーを開催

10月19日、リキャリスキル教学センターでは、大学院地域マネジメント研究科と共催して、博士号の取得を目指す社会人向けのセミナーを開催しました。地域マネジメント研究科修了後に博士号を取得した3名の卒業生が登壇し、進学のきっかけや支えとなったキーパーソンとの出会い、仕事や育児との両立、論文作成におけるスケジュール管理など、具体的な体験談を参加者と共有しました。質疑応答では、博士号取得のメリットとして、「自己肯定感の向上」「人脈の拡がり」「問題解決の選択肢が増えたこと」など、実生活やキャリアにおける変化が挙げられました。セミナー終了後も登壇者との意見交換が続く熱意ある参加者の姿が印象的でした。リキャリスキル教学センターは今後も社会人の学びを支援していきます。

参加者の関心が最も高かったのは「博士号取得によるメリット」。キャリアを見直す良い機会になりました。

香川大学ダイバーシティ＆サイエンス理系選択応援プロジェクトラボ訪問Part1「ドローンを体験してみよう！」を開催

diversity

10月5日、女子中高生向け「ラボ訪問」を実施しました。日本では理系分野で活躍する女性が少ないことが課題となっていますが、ダイバーシティ推進室では、JST補助事業「香川大学ダイバーシティ＆サイエンス理系選択応援プロジェクト（令和5～6年度）」として、香川県内外の企業や自治体と連携し、中高生が、実際に女性研究者・技術者と交流し、理系キャリアに対して具体的なイメージが持てるよう、さまざまな事業を実施しています。その一環として今回は、中高生及び保護者が、最先端の研究を始め、地域に根ざした研究など多種多様な研究に取り組んでいるラボを訪れ、研究や技術の一端に触れ、理系分野への興味関心を深めてもらう機会となりました。また、女性研究者、大学院生・学部生から、研究の魅力、キャンパスライフ、進路選択などについて直接話を聞き、将来の進路やキャリアに対する不安や疑問の解消に繋がりました。

1.災害現場でのドローン活用事例の紹介をする久保先生　2.学生によるキャリアトーク　3.トイドローンを操作する参加者　4.大型ドローン飛行の見学